Topics 街の話題

身近な情報をお寄せください
（白根市役所企画財政課広報広聴係
☎373・2111）

航海で得たもの、人との出会い

高橋素晴さん（大通一）、航海記が出版される

昨年夏、一人で太平洋を横断した高橋素晴さん（大通一）の航海の様子をまとめた本「それから―」

十四歳太平洋単独横断」がこのほど出版されました。本には、太平洋横断の航海記とそれを振り返っての思いなどが書かれています。

「航海から一年以上が経ち、その間いろんな人に出会い、成長した」という素晴さん。『それから』というタイトルは、これからの人生を見据える意味も込められています。「僕でもできたんだから、皆さんも何事もやればできるんだ」ということを伝えたい」と話していました。

伝説のフリーキックを披露

木村和司サッカー教室

元横浜マリノスの木村和司選手を迎えての小学生サッカー教室が、七月二十九日、白根一中グラウンドで開かれました。これは社会を明るくする運動月間に新潟保護観察所の一日所長として訪れた木村選手が、時間の合間をぬって開催してくれたもの。元日本代表選手の指導がじかに受けられるとあって、参加した子供たちも大張り切りで練習に汗を流していました。

木村選手と言えば、かつてワールドカップアジア予選の韓国戦で決めた二十数メートルのフリーキックシュートがあまりにも有名。この日も鋭く回転をかけたシュートを何本か披露。子供たちはもとより観衆からも驚嘆の声が上がっていました。

スライム作りに挑戦

大郷・鷲巻地区公民館おもしろ科学実験教室

「遊びながら科学を覚えてもらおう」と八月八日、鷲巻地区公民館で小学一～三年生を対象にしたおもしろ科学実験教室が行われました。

この日の課題は、ぐにゃぐにゃしたゼリー状の物体スライム。ほう酸を溶かし、色水を作って、洗濯のりを混ぜるとスライムの出来上がり。色水の濃さやのりの混ぜ方によって、色や伸び具合も千差万別です。赤、青、緑、紫と色とりどりの物体を子供たちは不思議そうに眺めていました。

三川村でカヌーを堪能

ジュニアスポーツサマースクール

七月二十八日から一週間、市内の小学三・四年生を対象にしたカルチャーセンターのジュニアスポーツサマースクールが開かれました。子供たちはゲートボールやグラウンドゴルフなど、普段ばなじみの薄いさまざまなスポーツに挑戦しました。

七月三十日は、三川村へ出掛けてのカヌー体験。戸惑い気味だった子供たちでしたが、転覆したりぶつかったりしているうちにパドルの扱いも一人前に。楽しそうに水面をこぎ回っていました。

さあ、落ち着いて行動を

消防クラブ合同実技研修会

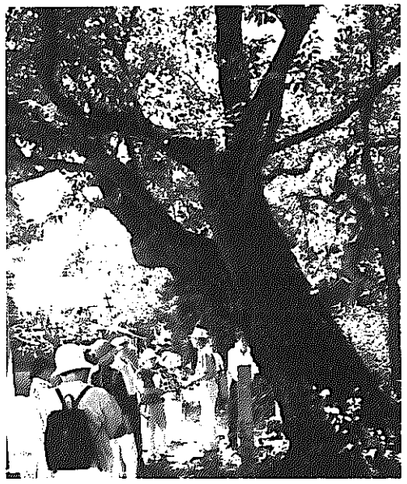
八月八日、白根地区消防本部で、婦人防火クラブと少年消防クラブの合同実技研修会が行われました。

研修の主な内容は、今年度宝くじ助成事業で購入されたばかりの模擬消火訓練装置を使っての消火訓練と起震車による地震体験。消火訓練では、「やっぱり体験してみないと、いざというとき困りますから」と、クラブ員が積極的に消火器を手にし、装置に向けて噴射していました。

その後の起震車体験では、あまりの揺れにガスの元栓をしめ忘れてテーブルの下に避難してしまう人もいるほど。「想像以上の揺れで、訓練と分かっていても、どうしたら良いか戸惑うものですね」と上気した顔で話していました。

歴史知る名木を訪ねて

白根の文化財と名木巡り



市内にある県・市指定の文化財や名木を見て回ろうと社会教育課が主催した「白根の文化財と名木巡り」が、七月三十一日に行われました。

市では、今春、名木六十八本を紹介した写真集「白根の名木」を刊行。さらに、それぞれの木のわきに看板を立てました。

今回の催しはこれを機に企画したもの。参加した人たちは、文化財保護審議会委員の説明で市内の十六カ所を見て回り、樹木に触れたり写真を撮ったり。ある参加者は「水と闘ってきた土地で、こんな大木に成長するなんて、すごいですね」と、大きな木を見上げていました。

電車って楽しいね

白根小学校二年四組「電車に乗って出掛けよう」

七月二十六日、白根小学校二年四組の親子が新潟交通の電車に乗って、白根から木場へ向かい、木場城公園（黒埼町）でレクリエーションを楽しみました。

これは「電車線廃止の話が聞かれる中、ぜひ子供たちに体験させてあげたい」と、PTAが学級行事として企画したもの。親子約八十人が電車に乗り込むと、電車はまるでラッシュ時のように満員になりました。子供たちのほとんどは電車に乗るのが初めてとあって大喜びで景色を眺めていました。

経営者としての感覚を養って

白根市農業の改革を考える農業者集会

八月一日、市農業振興協議会主催の「白根市農業の改革を考える農業者集会」がJA白根市ドリームホールで行われました。

集会には、農業関係者ら約百三十人が参加。市とJAから農業振興計画の概要が説明されたのに続いて、藤谷筑次京都大学教授の講演が行われました。

藤谷教授は「これからの時代は、地域の農業のことは自らが考えていくしかない。経営者としての感覚を養う努力をしてほしい」と、農業経営者の意識改革の必要性を訴えました。